

標準作型

○印・植付け

□印・収穫

作 型	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
春植え				○					□			

栽培のポイント

連作すると、病気が多発するので3~4年間は同じ畑で作付けしないようにする。
高温多湿を好む作物のため、乾燥に弱く干ばつの年には生育が悪くなる。

品 種

石川早生：早生種。肉質は粘質。
土垂：中生種。子芋の肥大が良好な多収品種。
弥一：中生種。土壌の乾燥が激しいと芋の表面に割れが入りやすい。
神農総研1号：中生種。中~粘質でち密。乾燥にやや弱い。

畑の準備

畑は1ヶ月くらい前に苦土石灰(10kg/a)と堆肥(100kg/a)、ようりん(3kg/a)をまいて全面を耕しておく。

元 肥

(1a 当たり使用量)

ジシアン有機化成 S 806 号	10 kg	植付け 1 週間前までに
------------------	-------	--------------

種いも

種いもはふっくらとして芽が傷んでいないものを選ぶ。大きさは40~60g ぐらいのものがよい。種いも消毒は病気予防の対策として行うと良い。

植付け

4 月上旬中旬が植付けの適期である。あまり早いと雑草が繁茂する場合がある。
覆土は、種いもの上に5~6 ㌢の厚さに土がかかる程度とし、あまり厚く土をかけておかない(厚すぎると地温が上がらず萌芽が遅れる)。
うね幅 90 ㌢、株間 45 ㌢ 種いも量の目安：15~20kg/a

病虫害防除

切断すると中心部に赤色の小斑点が見られ、ひどいものは断面が一面赤色または赤褐色となり中心部はスポンジ上に乾腐して空洞化するのは乾腐病である。
種いもを良く選別し連作をしないようにする。
6 月~7 月のアブラムシ類、乾燥した年のハダニ類やハスモンヨトウの発生に注意する。

追 肥
土寄せ

5 月中旬から梅雨明け前にかけて2~3 回、化成肥料をうねの両肩にばらまき、土寄せをする。梅雨明け前の土寄せはやや厚めにする事で、子芋の芽が出にくくなる。

(1a 当たり使用量)

NK 化成 2 号	3 kg	6 月中旬・7 月中旬
-----------	------	-------------

乾燥対策

サトイモは乾燥に弱く、生育が悪くなるので雨の少ない時は通路にかん水をする。敷きわらはコガネムシ類幼虫の被害が出やすいので行わない。

収 穫

早生で8月下旬頃、中晩生で10月下旬頃から傷をつけないように掘り取る。

種いもの貯蔵

量に合わせて深さ60 ㌢の穴を掘り、親株についたままの種いもを崩れないように土面に対して茎の部分が下になるように積む。
貯蔵穴に水が入らないように盛り土の上をワラやビニール等で覆う。